祐介の目

No.165

大田祐介（福山市議会議員）

水道料金値上げ

福山市上下水道局が27年振りに水道料金の値上げを表明した。じつは上下水道局の事業はすべてが厳しい。下水道事業は管路の老朽化問題を抱え、工業用水道事業はＪＦＥの高炉休止の影響を受ける可能性がある。そして肝心の上水道事業は急速な人口減少、管路の老朽化、節水機器の普及等、必要不可欠ではあるが、すべてが先細りの事業と言える。将来的な水需要予測を精査し、少しでも早く財政見通しを作成した方が良い。今後は上下水道経営審議会にて料金改定の議論が行われるが、全ての責任を審議会の委員に負わせるのは荷が重いだろう。今年は水道通水百周年、百年前は市民・議会を巻き込んだ大議論があった。すべての市民・事業者に影響を及ぼす値上げであるから、大いに関心を持っていただきたい。

民間企業であれば市場が先細りである場合、値上げは一つの手段としても他にも様々な経営努力に努めている。例えば①リストラ②ダウンサイジング③Ｍ＆Ａ（広域化）④輸出・海外進出などだ。上下水道局は公営企業であるが、リストラはやりすぎると人材育成・技術継承に課題が出るし、ダウンサイジング（施設統合）もやりすぎると災害時の断水が長期化するなどのリスクがある。事業縮小と並行して事業拡大に取り組むべきだ。例えば山野浄水場から県境を越えて井原市川相地区へ給水する計画を起点に、将来的に福山市・笠岡市・井原市の水道事業を統合する（Ｍ＆Ａ）プランはいかがだろうか。国内市場に限界があるならば、北九州市のように海外の発展途上国に上下水道インフラを輸出してはどうか。職員のやりがいも高いと聞く。福山市の姉妹都市タクロバン市の市長は技術交流をしたいとの思いがある。水道インフラ輸出の可能性もあるのではないか。

以上のように料金値上げと併せて様々な経営努力に取り組まないと市民も事業者も納得しないだろう。適正な料金について議論をしっかりと進め、次の百年も持続可能な水道事業を目指して欲しい。